

1. はじめに

広島県腫瘍登録事業は、昭和48年（1973年）4月1日から開始されました。全国では、本県と長崎県だけで実施しており、本県のがん対策の向上・推進に寄与すべく、放射線影響研究所（当時の ABCC）や広島大学との協定締結から始まりました。事業開始から46年にわたり歴史を積み重ね、2019年（平成31年・令和元年）末までの総登録受付件数は1,483,228件に達しています。

これはひとえに、病理医の先生方をはじめ各施設のご理解とご協力の賜であり、本事業に尽力いただいた諸先生方にあらためて感謝申し上げます。

このたび、2019年（平成31年・令和元年）に登録された47,768件のデータ集計を基に、44冊目となる腫瘍登録事業報告書を作成いたしましたのでお届けいたします。今年度は毎年行っている特定臓器解析は行っておりませんが、2016年に腫瘍と診断された腫瘍登録の結果をまとめ、本報告書では、「グラフで見る2016年のデータ」として掲載しております。

男性の悪性腫瘍は、1993年から2016年までの間は、胃がんが最も多く、次いで結腸がん、前立腺がん、肺がん、直腸がん、膀胱がんの登録数が増加傾向にあります。また、女性の悪性腫瘍では、2004年から乳がんの登録数が急激に増加していることや、子宮頸がん、甲状腺がんについても2005年から徐々に増加傾向にあることが、この報告書から読み取れます。

県内の悪性腫瘍の登録結果を長期にわたって積み重ねた説得力のある資料としてご活用いただければ幸いです。

今後も広島県医師会は、学術団体として腫瘍登録事業を継続してまいります。このように全国に類をみない貴重なデータが、広島県におけるがん研究の基礎資料となり、さらなる事業の推進を図るとともに、広島県行政が目指す「がん対策日本一」へも貢献してまいりたいと考えます。

引き続き本事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

一般社団法人広島県医師会会長

広島県腫瘍登録委員会委員長

平 松 恵 一